

とほくへく街道会議

東北の街道から夢・未来を語る

いわて発・街道からみえてくるこれからの道

第3回交流会

日時 平成19年11月3日(土)・4日(日)
会場 いわて県民情報交流センター(aaina)

岩手大会

報告書

■第3回交流会岩手大会プログラム

11/3
土

I 交流会 13:30~17:30

- | | | |
|--------------------|--|--|
| 1.開 会 | | 5.次回開催地報告 |
| 2.主催者挨拶 | 実行委員長 盛岡市長 谷藤 裕明氏
どうほく街道会議 代表幹事 志賀 秀一氏 | 6.分科会 15:15~16:45 各会場
分科会報告 17:00~17:30 |
| 3.来賓挨拶 | NPO法人全国街道交流会議 代表理事 田中 孝治氏 | 7.閉 会 |
| 4.基調講演 13:45~15:00 | 講師:工藤雅樹氏(前東北歴史博物館館長、福島大学名誉教授)
演題:「平泉と奥大道を通った人々」 | 国土交通省岩手河川国道事務所長 山本 聡氏 |

II 街道談義 18:00~20:00

岩手県内の地酒や地産地消・郷土料理とともに情報交換を行います。 アトラクション:山岸さんさ踊り(山岸さんさ踊り保存会)

11/4
日

街道探訪会 [第1:県北コース]

景勝地浪打峠と調査・保存活動、難所糞が坂と地元のお宝を巡る

街道探訪会 [第2:盛岡市内コース]

盛岡市内の旧奥州街道の史跡とまち並み、田稲荷街道の松並木を巡る

11/3^土
交流会

交流会・岩手大会



主催者挨拶 実行委員長 盛岡市長 谷藤裕明氏



とうほく街道会議 代表幹事 志賀秀一氏



来賓挨拶 NPO法人 全国街道交流会議 代表理事 田中孝治氏

●ポスターセッション



●街道談義



「とうほく街道会議」第3回交流会・岩手大会実行委員会

実行委員長	盛岡市長
副実行委員長	とうほく街道会議代表幹事
実行委員	とうほく街道会議代表幹事
	(社)東北建設協会・みちのく街道研究会会長
	盛岡商工会議所会頭
	(財)岩手県観光協会理事長
	NPO法人 秋田岩手横軸連携交流会理事長
	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長
	岩手県県土整備部長
	盛岡市建設部長
	NPO法人 奥州街道会議理事長

平泉と奥大道を通った人々

前東北歴史博物館館長、福島大学名誉教授 工藤雅樹氏



基調講演をする工藤雅樹氏

工藤雅樹氏プロフィール

盛岡市出身。盛岡第一高校卒。東北大学文学部卒。同大学院博士課程、助手などを経て89年福島大教授、03年定年退官。04年から07年3月まで、東北歴史博物館（宮城県多賀城市）館長を務める。岩手県文化財保護審議会会長、「平泉の文化遺産」世界遺産登録推薦書作成委員会委員長などを務める。仙台市在住。

まず始めに平泉の成り立ちについてお話をします。平泉藤原氏の初代は藤原清衡です。以下、2代基衡、3代秀衡と続き、4代泰衡のときに源頼朝に滅ぼされ、100年にわたって藤原氏がきあげた東北支配のシステムは、鎌倉幕府に受け継がれることになります。

そもそも初代清衡はどのような人であったかといいますと、父親は京都の藤原一門に属する人物でした。その後、母親が秋田県の清原武貞の妻に迎えられ、清衡は武貞の養子となります。後に有名な「後三年の合戦」が起きますが、この戦いは清原氏の跡を継ぐ有資格者3人による戦いでした。そして勝ち残った清衡が清原氏の主としてスタートし、後に藤原氏を名乗ることになります。この「後三年の合戦」の前には、源氏の將軍と安倍氏が戦う「前九年の合戦」という戦がありました。

平泉藤原氏以前、このあたりをおさえていたのが安倍氏で、その後を清原氏、藤原氏と統治者は移り変わって行くのですが、この時期の流れを大きくひとつのものとして考えなければなりません。

次に安倍氏、清原氏、藤原氏と続く政権と、京の都との関係についてお話します。安倍氏、清原氏、藤原氏は東北地方の北の方を制圧していましたが、それは都との微妙なバランス関係で成り立っていました。それを支えていたのが奥六郡の産物に加えて、北方世界との交易品だったわけです。有名な金だけでなく、奥六郡の名馬であり、蝦夷地から海を越えて運ばれる鷹の羽、アザラシ、アシからの海獣の毛皮、昆布などでした。安倍氏、清原氏、藤原氏はこれらのものを安定的に都に供給し、見返りとして時の政権からこの地方の実質的な支配を認められていました。この北方との交易ルートは「奥大道」と呼ばれ、蝦夷地には鉄製品・繊維製品や焼き物などが運ばれましたので、これは北日本版のシルクロードと言えると思います。

これと似たような例が中国にありますのでご紹介します。漢の時代に築かれた万里の長城がありますが、その先に砂漠の都市敦煌がありました。岩山に穿たれた莫高窟は壁画で有名ですが、敦煌は唐末には張氏や曹氏が実質的には敦煌王国の王でした。その後は西夏王国の領域になります。当時の都は長安ですが、敦煌の王族は長安の権力者にシルクロード交易で得た珍しい貢物を贈り、形式的には地方長官に任命されるという手続きを踏んで敦煌王国の統治権を確保します。また、ウイグル族王国などの近隣の国々の王族と婚姻関係を結び、安定した政権を得る一方、勢力拡大も図ります。

この敦煌王国のあり方は安倍氏や清原氏、藤原氏の政権と共通のものがいくつも見ることが出来ます。北方の産物を貢物として都の権力者に送って、形式的には地方長官ながら、実質的には地域を掌握した辺境地方政権であったこと、安部、清原、藤原氏は複雑な婚姻関係で結ばれていて、全体を一枚の系図で表すことが出来るほどの縁戚となっていることなどです。

平泉や敦煌王国は都の中央政権から遠く離れた所に存在した、「遠京辺境地方政権」と規定できる権力といえるでしょう。敦煌王国の背後にはシルクロードで運ばれる西域の品々が、平泉には「奥大道」でつながる北方の品々がありました。この豊かで珍しい交易品が「辺境地方政権」を支えたと言えるでしょう。

第1 分科会

【会議室 804B】

歴史街道を興す ～『夢とロマン』の道を追う～

コーディネーター

宮原博通氏・地域環境デザイン研究所 所長

それぞれ活動を行っている方にお集まりいただいたので、活動内容とこの先の可能性、活動の成果や課題をどう乗り越えてきたか、お聞きしました。

街道を通して私達は歴史をさかのぼり、その街道が醸し出した文化性などを学ぶことができます。その街道に接することの出来る地元の方々がお宝だと理解し活用してほしい、また何かにつなげて更なる魅力をつくり自分達のふるさとの誇りとして大切にしていくものであってほしい、そう願っています。街道が人・物・文化を往来させてきたように、街道を通じて現在の活動を往来させ、そうした流れをつくる役割もあっていいのではないのでしょうか。

パネリスト

加藤喜一氏・ここ掘れ和ん話ん探検隊 十三峠部会事務局長

山形県で、主に町づくりに関した活動をしています。最近、地域振興を図ろうと、敷石の眠る萱野峠に着目したイベントで240mの敷石を掘り起こしを行い、180名もの参加者のなか、大盛況を取めました。地域の方々も元気を取り戻し、地域おこしに一定の成果を確認するとともに、実際に動く事が大事なのだ、という実感がわいたのではないかと思います。今後は他とも交流を持ち、学び、いつか地域にお返しをしたいと考えています。しかし、地元の方々が自分たちの宝物に気付いていないのか、特に若い人達の参加が希薄なことが課題です。周知宣伝や、(活動を)教育の一環にするなど、つながりを深める意味でも進めていきたいと思っています。

パネリスト

古賀方子氏・NPO法人 全国街道交流会議 専務理事

長崎街道に関する地域を紹介します。まずは北九州市。町並みを整備し町づくりに活気がでると、旧産炭地域も相乗して人気が出てきました。次に飯岡市では、雛祭りを開いたりし、こ

れが町起こしのきっかけに。そして佐賀県は、昔韓国と交流のあった対馬藩の飛び地でもあり、宮本武蔵が泊ったとのことで着目された温泉地などがあります。最後に長崎市。ここはキリスト教やシーボルトにゆかりがあり、世界参加に取り組んだりしています。

これだけの文化的資源ですが、各地連携をとらないと十分に活かされないで、各地を貫く主体が必要です。街道はつながっていてこそ役割を果たすもの。全体をひとつのアイデンティティとかブランドにしていこうという想いを伝え、何らかのつなぐ方法を考えていきたい。それから、歴史的ロマンを思い起こせるような部分も大切にしていきたいと思っています。

パネリスト

三浦隆 氏・NPO法人 秋田岩手横軸連携交流会
歴史文化部会

岩手と秋田を繋ぐ秋田岩手横軸連携交流会にて、主に盛岡領と秋田領の「お助け小屋」の現地調査、案内役などの活動をしています。現在は、日本風景街道への取り組みとともに、明治の道の復元と活用を考えており、そのために実際に歩いたり、精度を高めるため携帯のGPSを使った調査をしています。その活動の成果として、明治の道の現状と景観が大分把握できましたので、観光資源、各世代含めた交流の場としての使い道を考えております。今後は、一般の方が参加する活動を根付かせる、協力支援体制をとる、そして最終的には様々な交流の場となり地域が活性化することを願っています。



道と文化

～奥州平泉と現在、未来を繋ぐ道～

コーディネーター

高井昭平氏・NPO法人 奥州街道会議 理事長

平泉と関わりながら、街道や地域への想いを持った方々に集まっていただき、平泉の文化遺産とともに歩む町づくりの可能性について考えました。

道から見る平泉という視点で話をしましたが、特に道に関係する資源を地域おこしに活かすため、世界遺産をみんなの手で掘ってみるようなプログラムの提案がありました。平泉の歴史遺産を掘りながら人の心も掘り起こして住民参加の町づくりをしていきたいと考えています。

パネリスト

相原康二氏・財団法人 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター所長

柳の御所遺跡の発掘とその保存問題に関わってきました。平泉から出る大量の陶磁器類は遠方から運ばれたものであり、太平洋側の縦断道路や、太平洋・日本海への沿岸航路の存在が考えられます。また、『吾妻鏡』に書かれた白河関から外ヶ浜を結ぶ奥大道や、遺跡群における道路の跡などから、12世紀の道路と現在の道路が極めて近い位置だったことが分かります。

これからの活動として体験発掘を行ってみたいと考えています。延年の舞など伝統芸能・儀式の鑑賞、座禅体験、史跡見学、食文化など地域文化も探訪しながら、大発見に繋がるかもしれないような緊張や喜びを、多くの人に体験させることが必要だと思っています。

パネリスト

菊池義教氏・前岩手の土木史研究会代表

岩手の土木史研究会で『岩手の道』を作成する際、世界、日本、岩手、それぞれの道路の歴史を調査しました。岩手では縄文時代に秋田からアスファルトを運んだ道、久慈の琥珀を運んだ東山道、安倍道や清衡道、平泉に金を運んだ道の総称である秀衡道もあります。

道路の役目には人の往来や交易、軍事、宗教、文化の交流があり、都市づくり、国づくりに大きな役割を果しましたが、道路は管理されなければ維持できません。

平泉には吉野、熊野古道のような道が残されていませんが、前中尊寺管主がお話されたように、清衡は戦の中に生きなければならない運命だったが、中尊寺、卒塔婆などをつくって死者を弔い、平和な世の中を祈った。平泉は「平和の道」があり、平泉はそのような気持ちで作られた町だということを伝えて行きたいものです。

パネリスト

関宮治良氏・古都ひらいずみガイドの会事務局

世界遺産というネームバリューを、地元に住んで随分と実感しています。ガイドは昨年500件ほどでしたが、今年は3～4割増になりそうです。観光客も台湾、韓国、中国の順に、アメリカやヨーロッパなど海外の方も増え、受け入れ側の課題も出てきています。

例えば平泉駅から中尊寺の月見坂まで文学碑や歌碑、藤原氏ゆかりの場所などを紹介するよう、道に物語をつけてはどうかと提案しております。まだ地元には、道を聞かれた場合にも観光協会に行っておいて、という回答をすることがありとても残念です。意識改革に向け、住民の皆さんと議論してまいりたいと思っております。



みちと暮らす ～まちと生活の中の道～

コーディネーター

渡辺敏男氏・盛岡まち並み塾 代表

江戸期から続く鉾屋町(盛岡市)で、道筋にある古い建物を修景・保存する活動をしています。道が交通の空間だけでなく、大事な生活空間であることを認識しながら、街道や道をまちづくり、地域づくりに活かしてきた方々のお話をお聞きました。

昔は毎月のように歳時記があり、街の中の道を介して人々の動きがありました。今は物流、人が移動する手段としての道になってしまい、市街地を壊しています。街並みはその土地の歴史が生み出した顔ですので、人のために道があるんだという視点で道路を捉え、現代的な道と暮らすということを考える必要があると思います。

パネリスト

大沼昌昭氏・遠刈田温泉蔵王通り振興協同組合 相談役

宮城県蔵王町の遠刈田温泉蔵王通りで、町の活性化のため、25年ほど前から温泉街を通る道路整備を、平成9年からは商店街活性化のため歩道整備を進めました。できあがった道路を活用して始めた「大道芸フェスティバル」は、数千人を集めるほどになっています。

まちづくりの中で、道路一本をつくることによって住民の意識がすごく変わったことを経験し、一番重要なのは人づくりだと感じています。担い手の世代交代は順調になっていますが、活動当初の思い、苦勞していた頃の意識をどのように次世代に伝えていくかが課題となっています。

パネリスト

渋川恵男氏・七日町通まちなみ協議会 会長

会津若松市の七日町通りで江戸から続く乾物問屋をしながら、歴史的建造物を活用した活動をしています。私の住む七日町は、藩政時代は新潟などからの物流の基地で大いに栄えていましたが、私が帰郷した頃は人ひとり歩いていない

通りでした。

それから15年、商店街活性化のため様々な取り組みをして、今では年間20万人が訪れる通りになりました。古い建物がいかに修復、保存されているかは地域の文化度の表れです。古いものに新しい息吹を吹き込むことで、持続可能な街並みが形成されます。

また今後は、これまで邪魔者にされてきた木とか水を意識して再生し、環境にあまり負荷をかけない生活、まちづくりに、残された人生を使っていきたいと思っています。

パネリスト

寺井良夫氏・NPO法人 もりおか中津川の会 理事

道を使って楽しいことをやっていきたい、活性化につなげたいという思いで「減クルマでまちづくり」「自転車でまちづくり」運動を展開してきました。

減クルマでまちづくりでは、車を抑制して環境にやさしいエコ交通に転換するため、馬車や人力車、仙台から呼んだベロタクシーなどを盛岡市で走らせる試みをしました。また、駐輪場を増やす、自転車に有利な道路のラインを引くなどの社会実験もしました。

このような活動には賛否両論ありますが、車から車でない交通(バス・自転車など)に変えていかねばならないという意識が、少しずつ生まれていることがわかりました。意識が少しずつ変わりつつある。それを、もう一歩さらに行動に変えていく。私達の活動も始まったばかりですが、そんなところまで持っていきたいと思っています。



みちは人々の手によって ～みちづくり過去・現在・未来～

コーディネーター

元田良孝氏・岩手県立大学総合政策学部 教授

江戸時代から、住民により管理されていた道。車社会への転換やコミュニティの崩壊とともにその制度が失われ、現在、住民が使う道は行政の管理下となっています。しかし、様々な背景の中、今また住民参加による道路管理が増えてきました。このような活動に取り組む方々と、大学生のボランティア研究を問題提起として議論しました。

住民主体の町づくりの一環として、あるいは住民、企業、行政のネットワークで地域づくりと維持管理を、さらには補修まで、と多様な活動をされていることがわかりました。

今後は行政との関係をどうするか。議論はありますが、自分たちの住む道を自分たちで作っていく、良くしていくという活動での活躍を期待しています。

パネリスト

安部文則氏・宮城県美里町「おんべこ塾」事務局長

10年前に町づくりのため集まった仲間バイパスをきれいにしようと掃除、草刈、花壇作りと活動を広げてきました。現在は43団体、200名以上が参加し、関わっていただいた方々をねぎらうための感謝祭など、充実した活動を行っています。

当然、あまり行政に頼らず、資金も自分たちで集めていますが、今後の関わり方に悩んでいます。現在は、国土交通省に好意的に見守っていただいていますので、引き続きご支援ご指導をお願いしたいと思います。

自分を磨くことが目的ですが、次の世代に伝えるため、我々がまず行動で示そうと活動しています。塾生、特に若い人を増やして年齢的にも若返り、今後に備えたいと思います。

パネリスト

安藤美樹氏・NPO法人 奥州街道会議 事務局長

道や街道資源を活かした地域づくりを支援、実践するため、連携交流、政策提言、情報発信などの活動をしています。

現在の問題点は、対象範囲が広いためになかなか地域の情報や小さな活動団体まで十分に把握できないことです。直接地域に入るとともに、各地域の団体との連携が重要です。

今後は、企業に応援団として加わっていただくこと、官官連携を進めたいと考えています。地域、行政、企業とのネットワークで、地域の課題解決や、活動を支援していきたいと思っています。

パネリスト

田中孝治氏・みちの静岡コミュニティシンクタンク 理事長

民間、大学の先生、行政、地域活動家が一緒に作った団体で、道に関する活動団体の意見発表と縁組の場として開催した道のオープンフォーラムから、限定的な場所、限定的な手法での補修「プチ・メンテナンス」が生まれました。今は実験的に進めていますが、これまでの町内会型のほか、企業型、街道補修型、と3つに広げようとしています。

問題点は、参加する団体・地域の自立と連携不足です。頼られるのはうれしいし応援したいが、現場が増えると、今度は応援する側が支援しきれなくなってしまう。今の時代は行政のみで成り立たない部分は多いのですが、ボランティアに過度の期待をするのは無理。お互いが知恵を出し、より良い道路環境をつくる仕組みが必要な時代にあると思います。

アドバイザー

佐々木一夫氏・東北地方整備局道路部 道路管理課長

皆さまのお話を聞いて、地域の皆さんとの連携の必要性がクローズアップされてきたと感じました。各団体とも連携がとれていないと活動が成り立たないこともわかり、管理者側としても問題解決のために、各地域や出張所がうまく地域の方々と調整をとれるよう、できるだけ支援していきたいと考えております。



11/4 土
探訪会

第1 県北コース(岩手県一戸町~二戸市)



↑ 駕籠立場(かごたてば)で地元の方も交えて記念撮影



↑ 浪打峠での集合写真



↑ 釜沢地区の皆さんから郷土料理のおもてなし



↑ 難所といわれた
藁ヶ坂(みのがさか)



金田一~舌崎地区の
お宝めぐり→

第2 盛岡市内コース(盛岡市内~矢巾町・紫波町)



↑ 旧奥州街道沿いの紺屋町の町屋



↑ 新山舟橋跡に造られた明治橋の碑



↑ 80周年を迎える岩手県公会堂



← 稲荷街道の松並木

- 主催 / 「とうほく街道会議」第3回交流会・岩手大会実行委員会、とうほく街道会議、NPO法人 奥州街道会議、NPO法人 秋田岩手横軸連携交流会、NPO法人 いわてNPOセンター、(社)東北建設協会・みちのく街道研究会、(財)岩手県観光協会、盛岡商工会議所、岩手県、盛岡市、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
- 後援 / 岩手日報、盛岡タイムス、岩手日日新聞社、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞盛岡支局、河北新報盛岡総局、共同通信社、NHK盛岡放送局、テレビ岩手、IBC岩手放送、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、ラヂオもりおか、カシオペアFM、奥州エフエム、NEXCO東日本、NPO法人 全国街道交流会議、羽州街道交流会、ふくしまけん街道交流会、みやぎ街道交流会、稲荷街道を歩く会、東北街道連絡協議会、二戸市、一戸町、矢巾町、紫波町
- 協力 / 大和ハウス工業株式会社、東北電力株式会社、東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社